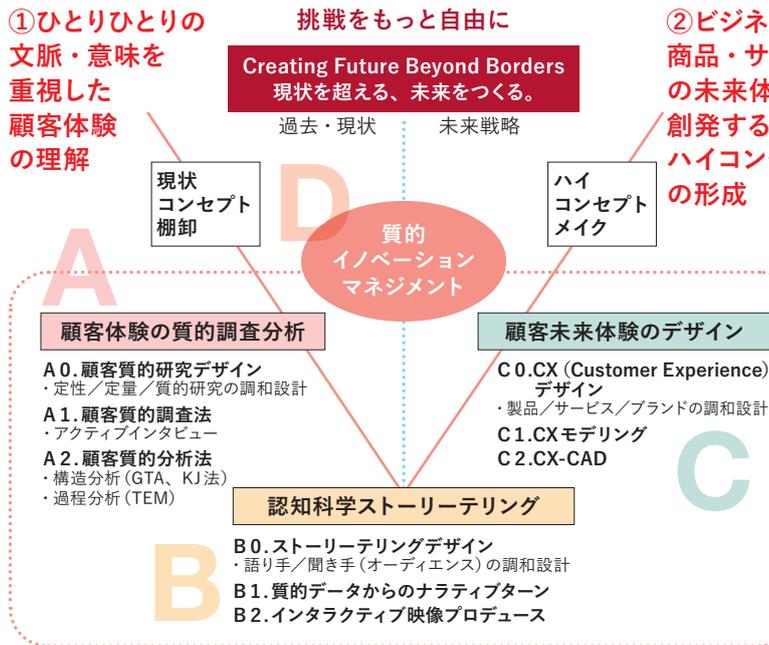


するハイコンセプトの形成までを実現するために、「顧客質的研究」、「認知科学ストーリーテリング研究」、「未来体験デザイン研究」、「質的イノベーションマネジメント研究」という4つの新しいアクションを開拓します。心理学、映像学、情報学、経営学の学融合で新しい学術的知見を切り拓きます。

また多様な業界から産官学が参画してコンソーシアム型共同研究を実施し、それぞれが抱える課題を学術的に解決し、新しいビジネス・製品・サービスの創出に貢献します。プロジェクト

ト・ベースド・ラーニングでの研究成果をまとめ、専門講座やワークショップ、研究成果発表などを開催します。さらには研究成果を生かして教育研修講座のエッセンスを開発し、新時代の製品・サービスづくりを担う人材育成にも尽力します。

コンソーシアムによる産業界との強い連携を礎として人の「こころ」を扱う人間科学の方法論を根幹に置き、産官学が集う「知の必須通過点」となることで、イノベティブな製品とサービスの創出と人材育成に貢献していきます。



(A)第1アクションは、過去・現在の環境認識のため、既存商品サービスのコンセプトの棚卸を行う。その課題は、ひとりひとりの文脈・意味を重視した顧客体験の理解である。この課題解決のため、「A顧客質的研究」という新研究分野を提案する。

(B)第2アクションは、ひとりひとりの文脈・意味のデータ群から、コンセプトの創造と伝達のため、多様なストーリー仕立てに再編することである。その際の課題は、ひとりひとりの文脈・意味のデータ群とコンセプトの関係認知科学的な考察と理解である。この課題解決のため、「B認知科学ストーリーテリング研究」という新研究分野を提案する。

(C)第3アクションは、6つのプロセス(物語・共感・デザイン・調和・生きがい・遊び心)を基調としたハイコンセプトメイクを行う。その際の課題は、ビジネス、商品サービスの未来体験を創発するハイコンセプトの形成方法である。この課題解決のため、「C未来体験デザイン研究」という新研究分野を提案する。

(D)第4アクションは、上記A、B、Cの全体的なイノベーションマネジメントである。その際の課題は、未来環境におけるビジネスモデルの形成方法であり、この課題解決のため、「D質的イノベーションマネジメント研究」という新研究分野を提案する。

研究：大学・研究機関の方へ

本センターは、質的研究法であるTEM(複線径路等至性モデリング)を基盤に、商品開発という実践を見据えた研究をするセンターです。心理学・映像学・情報理工学・経営学の融合で新しいものづくりのプラットフォームを目指します。

教育：学生・院生の皆さんへ

心理学と経営(マネジメント)の接点に興味がある方、映像や情報を取り入れて商品開発に挑戦したい学生・院生の皆さんの参加を待っています。今、始まったばかりのアプローチの先駆者として時代を切り拓いていきませんか？

産学連携：企業・財団の方へ

消費者の皆さんがどのような願いをもって生活し、ある製品の購買に何を求めているのかを知ることによる商品開発、それをCG(コンピューターグラフィックス)やVR(仮想現実)・MR(拡張現実)で効果的に表現することによる新しいものづくり。その可能性を見つける仲間になってください。



主な研究テーマ

- 心理学・映像学・情報理工学・経営学の融合
- 複線径路等至性モデリング
- ライフシフト時代における新しいHuman Resource(HR)のあり方
- インタラクティブCG技術を用いた質的調査法の拡張
- インタラクティブXRシステムの研究
- 未来生活カウンセリング技法の研究
- 未来生活価値創造プロセスの開発と社会実装の研究



センター長：サトウタツヤ(総合心理学部 教授)

主な研究拠点：大阪いばらきキャンパス、衣笠キャンパス、びわこ・くさつキャンパス

お問い合わせ：立命館大学研究部OICリサーチオフィス TEL: 072-665-2570 FAX: 072-665-2579 〆: mdz.ritsumei@gmail.com

<http://www.ritsumei.ac.jp/research/mdz/>